

(1)児童の体力の現状

○5年男子の投力は全国より3.28点、県平均より1.52点高い。
○2年男子、6年男子、2年女子、4年女子、6年女子の長座体前屈は全国より高く、全体的に柔軟性がある。
○4年女子は8種目中6種目で昨年の全国平均より上回る。
（上体おこし、長座体前屈、反復横跳び、50m走、立ち幅跳び）
○1年男子のシャトルランは県平均より0. 23点上回る。
●体力合計点は男女とも全国を下回る。（男子－2.62点、女子－4.32点）
●5年男子のソフトボール投げ以外はすべて全国より下回るが、なかでも立ち幅とびとシャトルランの差が大きい。
●低学年の運動頻度が低い。
●どの種目でもほとんどが県平均より下回っているが、高学年になるにつれて差が広がる傾向がみられる。
●5年女子で一週間の総運動時間が0分である割合が17.1%もあり、生活場面での運動頻度が少ない。併せて家の人からの運動のすすめや運動が好きと答えた割合も低い。結果、中学校でも自主的に運動したいと答えた割合も低く、運動への関心が低い。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

○課題である瞬発力(立ち幅跳び)については、まだまだ県平均に及ばないものの、校内においては前年の数値より向上した。
○5年生の体育の授業でめあての提示は全国や県よりも高く、昨年より男子で8. 4点、女子で6. 8点上がった。また、5年生の体育の授業でふり返りの活動を行っているのは全国や県よりも高く、昨年より男子で23. 4点、女子で15. 7点上がった。
○課題である持久力について県や全国にまだ及ばないものの、2年男子、4年男子、1年女子、2年女子、4年女子で昨年より数値が上がり、向上の兆しが見えてきた。
○児童会主催のスポーツ集会では、課題である持久力に目をつけシャトルラン大会を企画し、走る意欲を喚起した。
●男女とも高学年シャトルランは6～10ポイント開いている。校内での前年比は向上したが、立ち幅跳びも4年男女と6年男子以外は10ポイント以上の開きがある。依然として持久力、瞬発力は課題である。投力においても5年男子以外は差が大きく、課題である。
●泳力調査で前年の71%から60%に下がった。7月に諸事情でプール使用期間が短くなったのも影響していると考ええる。
●朝食をとらない児童が3年男子、6年男子、2年女子、3年女子にいる。昨年より微増。睡眠6時間未満の児童が3年男子・4年男子・6年男子にいる。昨年より微増。3、4年男子で睡眠時間が短い(6～7時間)児童が25%と高い。生活習慣を見直す取り組みの充実が課題である。

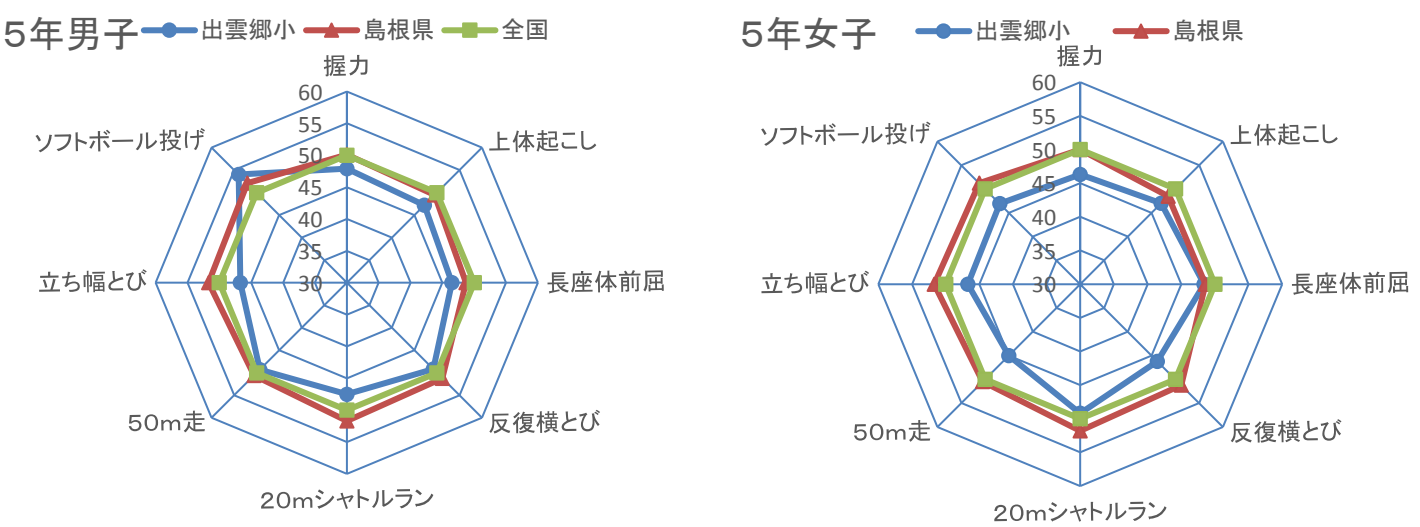
(3)31年度の取組【対策】

①学校における取組
・外遊び、運動遊びの奨励。運動量の確保に努める。遊具の整備と道具の管理を徹底し、大勢の児童がより多く運動できるよう配慮する。
・児童会活動(体育委員会)と連携し、児童主体の体力作りの取組ができるようにする。
・行事(なわとび大会、マラソン大会)の前後を生かし、行事でのゴール設定、それに向けての取り組みを盛り上げていく。また、次に向けての意欲を高める事後指導も併せて行う。
・学びの意欲を高める体育授業を目指す。自分の目標を設定し、それに向かって協働的な活動ができるようにする。
・TOKYO2020のプロジェクトと関連付けて運動への関心を高める。
②地域や家庭との連携による取組
・各便り等で体力向上の意義や大切さ、各学年における取組の状況を伝える。
・学級懇談会やPTA活動において、簡単にできる運動などを紹介し、家庭での運動習慣の確立を図っていく。

③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
・「朝食摂取」「バランスの取れた食事」等について情報発信を行う。
・生活リズム(なかでもメディアコントロールへの対応)がよくなるようにPTAと連携し、親子で考える取り組みを仕掛けていく。

調査実施者数(人) 1年(男子36・女子45) 2年(男子39・女子37) 3年(男子40・女子41)
4年(男子31・女子29) 5年(男子40・女子35) 6年(男子44・女子32)

(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果

